

日本語ボランティア入門講座 ～横浜で始めよう！日本語ボランティア～ 開催報告

【講座概要】

日本語学習支援を「日本語を教える」というよりも、「多文化共生のための」日本語学習支援として捉え、その考え方や方法を軸とした日本語学習支援入門講座を開催しました。

（ことばへのなじみから、名称を「日本語ボランティア入門講座」としました。）

1 開催の背景（地域の状況）

- （1）2020年度に「国際交流ラウンジ等における日本語学習支援者向け講座の実施状況調査」を行いました。それによると、ほとんどのラウンジでは、新規ボランティアを受入れるために、入門講座を開催していました。その内容は日本語ボランティアの心得やコミュニケーションの取り方、日本語を教えるための知識や技術、コミュニケーションのためのやさしい日本語など、ラウンジの状況によってそれぞれでした。
- （2）2021年度には、日本語・学習支援教室向け「活動状況についてのアンケート」を実施しました。（5月）支援者募集中の教室のホームページでの紹介を募ったところ、約50教室から掲載希望があり、日本語ボランティアを募集している教室が多くあることが分かりました。

2 目的

- （1）地域の日本語教室で活動する人の育成を通じて、多文化共生の地域作りを進める。
- （2）支援者を募集する地域日本語教室と活動希望者をつなぐ。これを通じて、地域日本語教室との連携を進める。
- （3）日本語ボランティアに対する研修プログラムを検討する。

3 日 時 2021年10月8日・22日・29日・11月5日 金曜日13:30～15:30
11月12日 金曜日13:30～16:30 全5回

4 場 所 オンライン（Zoom）

5 参加者 28人（延べ人数 95 人）

6 講 師 村上まさみさん（早稲田大学日本語教育研究センター非常勤講師） 第1・2・3・5 回
日高嘉恵さん（日本語で楽しむ会・トピックスかいわ教室） 第4 回・第5 回

7 協力者 ・ファム ミーリンさん：ベトナム語体験講師 第1 回
・上林暁昆さん：ゲストスピーカー（日本語学習や日本での生活体験など） 第5 回
・地域日本語教室（第5 回交流会参加）7 教室 8 人
磯子日本語教室／港南国際交流ラウンジ日本語教室／互相学習会（日本大通り教室）
つるみ子ども日本語教室「ともだち」／日本語の会「21」／
ほどがや国際交流ラウンジ木曜教室／ユッカの会

【講座プログラム】

回	テーマ	内 容	参加人数
第1回 (10/8)	日本語ボランティアって何をする人？	・外国語学習体験（ベトナム語） ・横浜市の多文化共生の状況 ・ボランティアの心構え	23 人
第2回 (10/22)	多文化共生のための「やさしい日本語」って？	・日本語に慣れていない人とのコミュニケーションの工夫	22 人
第3回 (10/29)	外国の人にとって、「日本語」ってどんなことば？	・生活に必要な日本語 ・日本語の特徴	20 人
第4回 (11/5)	日本語教室ってどんなところ？	・教室に来る学習者の多様性 ・地域日本語教室での活動例	15 人
第5回 (11/12)	【1部】次の一步をふみだそう！	・外国の方の、日本での生活や日本語学習の体験談 ・みなさんが、日本語ボランティアとしてやりたいこと、できること ・講座のまとめ	15 人
	【2部】地域日本語教室の皆さんと交流しよう！	・地域日本語教室の皆さんと交流しよう！ ・地域日本語教室・日本語ボランティアとの交流会	

===地域日本語教室向け「日本語ボランティア入門講座」説明会の開催===

この講座で、新たな日本語ボランティアの募集を検討している教室にも、講座を知っていただく機会を作りました。日本語教室同士の交流の場ともなりました。

名 称：「地域日本語教室向け説明会（日本語ボランティア入門講座）」

日 時： 9月22日（水）14:00～15:00

場 所： オンライン（Zoom）

参加者： 9団体13人（オブザーバー含む）

内 容： 1. 入門講座について（背景・概要・プログラム内容）

2. 日本語ボランティア募集に向けた、教室紹介について

「日本語ボランティア募集中の教室リスト」作成の説明

「入門講座最終回の入門交流会」への参加について

3. 参加者同士の交流タイム

「どんなボランティアを仲間にしたいですか」
「新しい人をどのように受け入れていますか？」

- 教えた経験がなくても楽しい雰囲気がある人がいい。
- 外国の方と一緒に共有しながらできる人がいい。
- 新しいボランティアでも、学習者に良いと思うことはどんどんやってもらっている。

第1回～第3回

講師：村上まさみさん 協力者：ファム ミーリンさん

多文化共生のための日本語支援について様々な視点からの講義を中心に、参加者は意見交換をしたり、ワークを行ったりしました。

外国語体験（ベトナム語）＜外国語と出会うということ＞ 知らない言語を聞いたり話したりする時の気持ちを体験しました。

==ベトナム語体験の感想==



- ・初めてベトナム語を聞いたので、パニックになり戸惑った。2～3回聞くと慣れて、聞く余裕がでてきて相手の表情や気持ちを気にかける余裕が出てきた。
- ・自分で話すときは、うまく話せず、なんとも言い難い気持ちになった。
- ・日英以外のことばを話してみても勉強になった。

横浜市内の多文化共生の状況 ＜多文化共生のまち横浜＞

講義では横浜市に暮らす外国人の状況の説明がありました。その後で地域日本語教室の役割から、日本ボランティアについて考えました。講師から、地域日本語教室の役割は「居場所」であり「日本語を学びたい人達の言葉を支える場」とあるというお話がありました。

多文化共生って何？

多文化共生について意見交換をし、それぞれの考えを共有しました。

==受講者のみなさんが「多文化共生」からイメージしたこと==

- ・互いの文化を理解して、日本の生活をサポートする。（文化や食べ物など）
- ・漢字のイメージからすると、文化、生活が違う人達が、相互理解して生活すること。
- ・様々な人が対等な関係で互いを尊重しながら生きていくということ。
- ・ホームステイを受けた時に、日本とは全く生活スタイルが違うことがわかった。

「外国」での暮らして困難や誰かの協力が 必要になるときはどんなときですか？

- ・災害、非常時、治安上の問題が起こったとき。
- ・役所で免許証の手続きをするときは、どうしたらいいか？
- ・病院、タクシーなどの交通、ごみの出し方、レストランの注文が難しい。
- ・緊急時のアクシデントが大変。
- ・自分が外国で生活していた時にガソリンの入れ方がわからなかった。

あなたなら、困難をどうやって克服 しますか？

- ・地域に知り合いの人がいたら助けてもらう。
- ・絵を書いて助けてもらう。
- ・自分のことばでコミュニティに入る。
- ・自分のコミュニケーション力を駆使してがんばる。
- ・通訳をつける。
- ・ネットで情報を教えてくれる人を探す。アクセスが難しい。

多文化共生のための「やさしい日本語」とは？

「やさしい日本語」ができた経緯や、外国の方が分かりやすい話し方の
コツについての説明を受けました。

キーワード

「やさしい日本語は・・・」

- ・日常の関係性をつなぐ、暮らしのバリアフリー。
- ・子どもからお年寄りまで、だれもが分かることば！
- ・外国の方と話すコツ 「やさしい日本語」と、ことばを伝えあうちよい足し！

「やさしい日本語」にチャレンジしよう。

私達が日常で使っていることばを、「やさしい日本語」で置き換えるワークをしました。

ワーク1

- ・ペットボトルは、不燃物といっしょに捨てないでください。
- ・むかむかしたら、この くすりを のんでください。
- ・「本日中にお召し上がりください。」
- 「関東地方で強い地震。念のために津波に注意」

参加者同士で実際に、「やさしい日本語」でお互いにやり取りを行ってみました。

ワーク2

「やさしい日本語」でつながる5分間

「私の朝ごはん」を話題に参加者同士で話をしました。みなさん、講師からの話にあった「やさしい日本語」で、朝ごはんについて、たくさんのやり取りが行われました。

外国の人にとって、「日本語」ってどんなことば？

私達が使っている日本語にはどんな特徴があるのかを学びました。

<日本語の特徴まとめ>

単語の数が多い／漢字を含む4種類の文字を使う／音の数（種類）が少ない
語順のルールがゆるやか／相手によってことばや話し方を選ぶ（待遇表現）
「ウチ・ソト」の概念／文体（スタイル）の種類が多い
日本語の「標準語」はなく、日本は「公用語」も定めていない。

★日本語の難しさは学習者によって異なる。

★生活でどんなことばが必要か、人それぞれ違う。

<生活場面で必要なことば>

- ・各種手続き ・子育て ・学校
- ・交流 ・旅行など

<達成に必要なことば>

- ・仕事 ・資格習得 ・受験など

（外国人は）日本語をどうやって学習する？

ことばは実際に使うこと、実践することで学習となる。

地域の日本語教室への思いをことばの活動に！

学習者にとって地域日本語教室はどんなところでしょうか。

1回から3回の講座で学んだ内容を踏まえて、講師から地域日本語教室についてのまとめを受け、受講者は実践を学ぶ4回目以降の講座の心構えができました。

地域日本語教室は

- ・日本語を学ぶところ ・日本人と話せるところ
- ・日本について知るところ ・地域について知るところ
- ・日本の暮らしになじめるところ ・生活情報を得るところ
- ・友だちに会えるところ ・自国の人と会えるところ
- ・楽しい経験ができるところ ・母語で話せるところ
- ・人と交流できるところ ・問題解決できるところ

第4回

講師：日高嘉恵さん

第4回の講座の講師は、長年、地域の日本語教室で活動を行っている日高さんでした。日本語教室の学習者の様子や、具体的な活動紹介があり、受講者はその後で、模擬活動の体験を行い、日本語教室のイメージを持つことができました。

日本語教室ってどんなところ？

教室に来る学習者の多様性とそれに伴う必要な日本語を知ろう

日本語学校での学習目的は大学や専門学校の合格を目指すための学習であるのに対して、地域日本語教室では、子育て、仕事、病院など生活者として必要な日本語を学んでいます。

教室に来る時間帯	平日の昼	夜・日曜日
属性	主婦・主夫	仕事をしている人・事務職
必要な日本語	ママ友との会話・買い物 病院 学校の先生との会話	上司・同僚との会話 仕事のメール・接客・面接

教室活動例の紹介と教室活動の体験

講師が対面教室とオンライン教室の活動例を紹介した後で、参加者は学習者役とボランティア役になり、テーマ「プレゼント」のワークで教室活動を体験しました。



話を広げる工夫

【講師より】

- ・絶対に正しい言い方をしなければならないのではない。
伝えたいことが話せればよい。
- ・写真などを使って話を広げていく。
- ・ボランティア役の方は、学習者みんなが、十分に話せるようにコントロールする。
- ・「やさしい」日本語を使う。

- ・日本語を使って何ができるようになるかを考える。
◇スーパー、日用品、家具を販売している店のチラシを使って何ができる？（季節、値段、数助詞など色々学べる）
◇学習者から学習者に質問をしよう。

【参加者から活動に対して出た質問】

- ・学習者がことばを間違った時には、直した方がいいですか？
- ・教室に来る学習者は毎回、違うと思うが、活動内容は、1回完結で終わるように作っていますか？

第5回【1部】

講師：村上まさみさん・日高嘉恵さん ゲストスピーカー：上林暁昆さん

次の一步をふみだそう

トークセッション「日本語学習経験者の話を聞く」

ゲストスピーカーの上林暁昆さんにインタビューしました。日本での生活経験や日本語学習経験、上林さんにとっての日本語教室など、様々な角度からお話を伺いました。

==受講者から上林さんへの質問==



Q: 来日してから何年ぐらいで外出しても大丈夫になりましたか。

⇒ 子供が小学校に入ってママ友ができてから。

Q: 日本語を覚えるために工夫したことは？

⇒ テレビをつけっぱなしにして、分からない時は字幕を読んだ。

Q: 日本語の何が難しいですか。

⇒ 外来語は今でも難しい。書くのは難しい。特に「っ」「ば」「ぱ」などが難しい。

総括セッション(1)

日本語ボランティアを始めるにあたって、不安なことや知りたいことを共有しました。

- ・テキストやマニュアルがありますか。
- ・クラスはレベルに分かれていますか。色々なレベルの人がいますか。
- ・地域の日本語教室で学習者と親しくになりたい気持ちはあるけれど、どこまで踏み込んでいいのか？
- ・日本語ボランティアとして一定レベルの日本語力やコミュニケーション力が求められる？
- ・経験の長いボランティアの人と情報交換、アドバイスを求めることはできる？

総括セッション(2)

日本語ボランティアになってほしいこと、経験者へのリクエストを話しました。

==経験者の方をお願いしたいこと==

- ・実践的なアドバイス、教えるコツ、フォロー。
- ・教えている時のサポート。
- ・経験談を話す。情報交換やアドバイス。
- ・最初はアドバイスというより、見守る。

==私にとって、ボランティアはこんな人==

- ・日本を好きになってもらうために、生活・ことばを手伝う人。／架け橋になる人
- ・お世話好きな人、知識豊富な人。新たな一步を踏み出せるように手伝う人。
- ・学校ほかかしこまらず、親しみやすい人。
- ・日本語を正しく、楽しく教える人

第5回【2部】

「地域日本語教室との交流会」

7つの地域日本語教室から8人のボランティアの方が参加しました。

地域日本語教室のみなさんと交流しよう！

新しい日本語ボランティアを募集している地域日本語教室の紹介の後、受講者の方との意見交換を含めた交流会を行いました。

==新しいボランティアを募集している「地域日本語教室の紹介」==



==地域日本語教室のボランティアの方との交流会==

受講者は、日本語教室についての質問や不安に思っていることを、すでに日本語教室で活動しているボランティアの方に質問をしました。ボランティアの方からは、安心して活動を始められるようアドバイスをいただきました。

- ・仕事も続けながらできる時間で活動したいが、長く続けるコツは？
- ・初級の学習者に、どう教えたらいいですか。
- ・学習者の質問に答えられなかった時はどうしたらいいですか。
- ・資格がないとボランティアはできないですか。



放課後タイム

関心がある教室のボランティアの方とさらに個別に話をする時間を作りました。

受講者の声 ＊アンケートより抜粋

- ・自分のことから早く行動に移していきたいです。
- ・普段使っている日本語を、やさしい日本語にするのは難しいと感じました。
- ・教えるのではなく、同じ目線で共に楽しみながら学ぶことが出来たらと思いました。
- ・日本語教師ではなくボランティア。ハードルが高いと思っていましたが、サポーターとしてなら出来るかと前向きになれました。
- ・実際の日本語ボランティア団体の方からお話を聞いたことは有意義でした。